

プログラム言語 C		教授 梅井 勇之	
科目カテゴリー	経営・経済コースの専門選択科目	科目ナンバリング	23002204

1. 授業のねらい・概要

Java 言語によりプログラミングの基礎を学習し, 基礎的な Java プログラムが作成できるようになることがねらいである。

- (1) Java 言語のプログラム作成環境および作成過程<ソースプログラムの作成, コンパイル, 連携編集, 実行>を, 実習を通して修得する。
- (2) プログラムで使う変数の意味や定義の表現方法, プログラミングに必要な基礎的なアルゴリズムについて学習する。
- (3) 構造化定理<順次処理・分岐処理・繰返し処理>を使って, プログラムの流れである基礎的なロジックを組み込んだプログラムが作成できるようになる。

2. 授業の進め方

テキストの演習問題に基づいてプログラムを作成する。講義と実習中心の授業形式で進める。

3. 授業計画

1. ガイダンス	9. 制御文 (条件文と boolean 型)
2. プログラムの作成	10. 制御文 (for ループ)
3. ソースファイルの作成	11. 制御文 (if による分岐)
4. 数値と変数	12. 制御文 (if-else による分岐)
5. 文字と文字列	13. 制御文 (ループの制御)
6. 特殊なリテラル	14. プログラミング期末課題 (基礎)
7. 配列	15. プログラミング期末課題 (応用)
8. 制御文 (while ループ)	

4. 準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間

プログラムを理解するため, パソコンを使ったプログラミングが 1 時間以上必要である。

5. 課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法

課題を出題後にプログラミングのヒントを与え, 授業時間終了前に模範解答を説明する。

6. 授業における学修の到達目標

プログラムの動作原理やアルゴリズムの概念が理解できるようになる。

7. 成績評価の方法・基準

課題の成果物 (60%), 定期試験の結果 (40%) によって評価する。

8. テキスト・参考文献

テキスト: 豊沢聡, 「情報演習 8 ステップ 30 Java ワークブック」, カットシステム

9. 受講上の留意事項

演習を中心に進めるので必ず出席すること。操作や意味がわからないときには積極的に質問すること。